

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3291300063		
法人名	有限会社 ライフスタイル東光		
事業所名	グループホーム 亀嵩蛍灯		
所在地	島根県仁多郡奥出雲町亀嵩443		
自己評価作成日	令和6年3月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3291300063-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和6年3月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>【利用者にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の暖かい雰囲気作り ・家庭的な暮らし方の提案 <p>【職員にとって】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理のない働き方の提案(体調や持病に合わせて調整) ・職員が無理をしてでも利用者に良い生活を送って頂こうと思わず、両者心地よく過ごせるような仕事の配分を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>落ち着いた木のぬくもりが感じられる古民家風で平屋建て2ユニットのホームです。すぐそばの温泉の湯を使用されており、テラスでの足湯、入浴時にも温泉に入れる楽しさを提供されています。一人ひとりの生活ペースや今まで暮らしてこられた生活背景を尊重し、食事の準備や掃除、洗濯など職員と一緒に行われています。食事を楽しめるよう毎食手作りの食事が提供され、野菜を作られたり、漬け物をつけられたり、おやつ作りもみなさんで行われています。誕生日には希望のメニューを伺い、季節ごとの行事メニューも提供されています。利用者がゆったりと自分らしく生活して頂ける支援になるよう職員は努めておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている(参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている(参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている(参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、理念達成の為情報を共有し取り組んでいる。また月/1回のミーティングの際に理念について話し合いをしている。 ※コロナ蔓延時にはミーティング等、集団を作ることは控えている。	事業所理念を作成し職員間で共有して実践しております。事業所理念を達成できるよう毎月のミーティングで話し合われています。	職員全員がより理念を実践できるよう具体的な毎月の目標を作成されることも良いと思います。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍も徐々に緩和してきており、地域の個人商店と定期的に外販事業を通じて交流させて頂いている。	コロナ5類移行に伴い、地域の専門学校との交流を予定しており、他の高齢施設の利用者の方との交流も予定されています。地域の商店による外販事業は継続しておられます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍も徐々に緩和してきてはいるが、現状は事業所の力を活かした地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍も緩和傾向である事から、令和5年6月の運営推進会議より従来通り2カ月に1回のペースにて開催している。	コロナ5類移行に伴い今年度6月からは対面で行われています。2ヶ月に1回のペースで行政、地域、利用者、利用者家族、法人本部からと多様なメンバーで開催しておられます。会議で頂いた意見等は支援向上に活かされています。	昼食試食会や避難訓練に参加頂き、ご意見を頂ける事も良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	雲南広域連合介護保険課の担当者様と相談し、入居や指定の事について協力して頂いている。	雲南広域連合や地域包括との連携が行われており、制度について質問や相談、確認をされ協力関係を築かれています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設置しており、チェックリストを作成し職員が自ら「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をしない様、毎日チェックできるようにしている。	身体拘束防止委員会を設置され、チェックリストを作成し、職員が具体的に何が身体拘束になるのかを確認されています。また、勉強会を行い正しい知識を得るよう取組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を防ぐために声掛けから注意を払っている。同意を得る様、声掛けをしてから介助する様に指導している。	虐待防止委員会の設置もあり、指針及び会議の議事録の保存も行われており、接遇研修も行い、声掛けにも注意をされています。	虐待の芽チェックリストの活用も良いと思います。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状、出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は必ず説明を行い、同意を得ている。また分からない点が無かったか質問をするようにしている。また契約後においても不明点があればアフターフォローを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見を頂戴すれば月/1回開催のミーティングにおいてフィードバックし改善に向けて行動できるようにしている。	利用者からは日々の会話の中から意見・要望を伺われています。家族からは面会時やプラン変更時に意見・要望を伺われています。県外の家族の方は電話連絡で確認しておられます。毎月のお便りは担当からのコメントを入れて利用者の様子が分かるように送られています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月/1回のミーティングを実施し、職員の意見、提案を聞けるような場を作っている。	毎月のミーティングの機会に職員からの意見、要望や提案を聞いておられます。運営についての勉強会も行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職によって給与が上がる制度を作り、役職の選出基準を設けている。	適宜個人面談を行い、職員一人ひとりの目標設定が行われており、研修の希望等も確認しておられます。役職によって給与が上がる制度が作られており、選出基準も設けられています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の実施、現状できる限りの社外研修斡旋を行っている。	全職員に向けた社内の必須研修も行われています。外部研修はオンラインを活用して行われています。ケアマネ、介護福祉士の研修参加を勧められています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人における他事業所と意見交換できるシステムは構築しているが、現状コロナ禍において実施は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント後も担当職員が情報収集やモニタリングが出来る様、システム作りをしている段階であり。まだ完全に担当者主体では行えていない。各ユニットリーダーが先導しながら本人様には思いを傾聴しケアに活かせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	信頼関係作りの為、ケアプランどう維持に心配事が無いか確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居介護 サービスのため、他の介護保険は使用できないが、介護保険外のサービスが活用できないか家族と検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	努力はしているが現在十分に出来ていない。家事など本人が出来る事はなるべくして頂くように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事故報告や問題提起など逐一連絡し、家族と共にお客様の生活を考える姿勢でいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援を不定期で行っているが、定期的には行えていない。なお冬季においては雪深い地域であるため外出が困難である。	5類に移行になっても家族に方も県外に住まわれている方が多く家族との外出の機会もあまりなく、冬場は積雪の多い地域ですので安全面を考慮すると外出の機会があまりない状況です。	馴染みの人や場所に出かけなくても、関係性が途切れないよう電話や手紙での交流をされ昔話をさせていただき時間を持たれ回想法につなげられる事に期待します。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく孤立する事の無いよう席の配置を決め、利用者同士の関係を作り事が難しい方に関しては、スタッフが会話をする等、工夫をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様から問い合わせがあった場合は相談支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、意思決定している。また生活歴を調べ現在の生活に活かしたり、継続することができないか検討している。	本人の意思を尊重し、意思決定ができるよう努めておられます。誕生日にはリクエストメニューを提供されたり、地域からの定期的な外販事業が来られ、好きなおやつ等を買われる機会を設けられています。	本人の楽しみややりたいことから生きる目標作りにつなげていかれと良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を把握し、サービスに繋がられる様配慮している。食堂経営をしていた方に食事作りをして頂きながら馴染みのある生活が出来るような提案をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状、出来ていない。の把握に努めている。またご家族様から情報提供を随時して頂き、ケアに反映できる様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の際に話し合った内容をケアプランに反映させている。しかし、担当者会議で挙げた内容全てをプランに反映させる事は出来ておらず、十分に現状に現状に則した内容とはなっていない。	毎月モニタリングを行い、担当から話を聞き、計画作成者が中心にプラン作成をされています。利用者、家族、医療関係者からの意見も反映されたプランになっています。現在プラン見直しは6ヶ月に一度行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に出来事を記入し情報共有を図っている。	記録は全て手書きで行われています。プラン変更の場合には留意点の説明をされ、記録として振り返りをされた時に役に立つよう注意され、情報共有が図られています。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	細々とした問題を利用者の要望や状況から読み取り、家族様に連絡し共に解決に向けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を活用して地域と交流を図っているが十分ではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	千原医院と連絡を取り合い、適切な医療が提供できるよう支援している。また認知症の周辺症状が強く出られる方についてはきながら、適切な医療を受けられるように支援して永生クリニックのフォローを受けている。	かかりつけ医は利用者・家族の希望される以前からの馴染みのある町内の協力医とされており、往診して頂いています。歯科は必要時に受診支援が行われています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力体制が取れる様、情報交換を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院の際は先方の相談員と情報共有を行っている。	入院時には病院の地域連携室と連絡を取り合い情報提供を行い、連携して早期退院を目指しておられます。退院時には退院後の生活の注意点等のアドバイスを受けておられます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の意向調査を行っている。現状終末期を迎えた方は、ご家族様と相談しながら医療機関、特養への移動を斡旋している。	契約時に利用者・家族へは終末期の指針について説明をされ同意を得ておられます。終末期を迎えられた際には医師の意見も伝え、家族と話し合わせ、医療的な対応が十分に対応できない場合には、医療機関や特養への移行をされています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員が訓練を受けている訳ではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練、心肺蘇生訓練を行っているが、地域との協力体制は十分ではない。避難訓練年/2回実施。地域との合同練習などは現在出来ていない。	避難訓練は年2回行われています。コロナ禍の影響のため地域との合同練習は行われていません。食料備蓄、非常用電源の用意もされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	比較的丁寧な声掛けや対応ができています。	排泄・入浴・食事はマニュアルに従いプライバシーに配慮した対応が行われています。丁寧な声掛けや対応ができるよう心掛けておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人がどうしたいか確認を取って、ケアに反映させられるよう取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて日々生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	なるべく以前から着ておられた服を持って来て頂ける様、家族に声掛けし支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、実施出来ている。利用者と一緒に食事作り、準備、片付けを行っている。	食事は毎食手作りで提供されており、野菜作りや漬け物作り等、今までの生活の中でやってこられた事を継続して頂けるよう食事の準備や、食器洗い等それぞれが役割を持って頂けるようにしておられます。食事を楽しめるよう誕生日のリクエストメニューや季節毎の行事メニュー、おやつ作りも行われています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し確保が出来る様支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている、しかし本人の希望や拒否が強い方に関しては意思を尊重し、毎回行ってはいない。	口腔内の清潔保持はそれぞれの状況に応じた支援が行われています。8割は義歯を使用されており、夜間は洗浄液に漬けて消毒しておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の状態に合わせて排泄の環境を整えており、場合によっては見守り、介助を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握され、それぞれに合わせた声掛け、誘導、介助が行われています。最新まで可能な限りトイレで排泄できるよう支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防に対する取り組みは十分に行えていないが、便秘時は長引かない様、主治医に定期薬の検討や下剤の処方を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前中に入浴時間を定めているが、本人の意志を尊重しなるべく入りたい時間に入浴している。	目安として週2回、午前中に入浴頂いております。本人の希望によっては午後や夕食後に入れるよう対応される場合もあります。テラスにある足湯も春になったら再開される予定です。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に本人様にお任せしているが、昼夜一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ 逆転傾向の方は日中なるべく活動的に生活して、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 いただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	みなり薬局と連携し、居宅療養管理指導を受けており薬剤師から説明を受けている。また処方内容の変更時は状況変化に注意して見守りを行っている。	薬は薬局から配達されており、セットされている薬をユニット毎に職員が確認し分け、服薬時にはもう一度確認して誤薬の無いよう気を付けておられます。薬の変更時にはファイルの差し替え薬の情報共有され、利用者に変化がないか注意し何かあれば医師に連絡して指示を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	全ての利用者には行えていないが生活歴を掘り下げた支援を行い、楽しい毎日を過ごして頂ける様、配慮をしている。 例)掃除、縫物、手芸、園芸、塗り絵、点つなぎ等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に合わせて出かけられる様、配慮しているが冬季などは雪があるため外出が出来ていない。	コロナ5類に伴い、従来のようにドライブに出掛ける機会も増えてきています。これからの季節は桜を眺めながら足湯の利用をされたり、外気を感じながらテラスでお茶を飲む機会もあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は現金を自身で所持しておられる。毎週火曜日近所の加藤商店が訪問販売に来られ、その際に買い物を楽しんでおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については行っているが手紙については現状、対象の方がおられない。年賀状を自身の手で家族に書いてもらうという取り組みを行った。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	既設によって時期の行事飾りや植物、花を飾るようにしている。	温湿度、換気も気を付け明るいリビングになっています。また、季節の飾り付けをされており、新しい建物ですが、過ごしやすい落ち着いた雰囲気作りをされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	なるべく楽しく過ごして頂ける様、ソファや椅子を配置して思い思いに過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に使い馴染みのある家具や食器を持って来て頂ける様、配慮している。	グループホームが生活の場となり、居心地良く毎日を過ごして頂けるよう今までの馴染みのある物や家族の写真も持って来て頂かれています。ベッドの位置も動線に配慮し、利用者それぞれに応じて対応しておられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なんでも介助や手を出しすぎない様、配慮している。		